

売上収益

2,900億円 前期比 **0.5%増**

抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、腎細胞がん、胃がん、頭頸部がんでの使用拡大を見込むものの、2018年11月の薬価見直しの影響や肺がんでの新規使用患者数の減少を見込んでおり、850億円(前期比56億円減少)を見込んでいます。一方で、ロイヤルティ収入の増加を見込んでおり、次期の売上収益は前期比14億円(0.5%)増の2,900億円を予想しています。

営業利益

670億円 前期比 **8.0%増**

持続的成長の実現に向けた積極的な研究開発投資を行います。また、新製品やオブジーボ関連の活動経費の増加などから、販売費及び一般管理費の増加を見込んでいます。一方で、前期に発生したオブジーボ原薬の安定供給を受けるための一時的な負担金が次期には発生しないことなどから売上原価の減少を見込んでおり、次期の営業利益は前期比50億円(8.0%)増の670億円を予想しています。

税引前当期利益

700億円 前期比 **7.5%増**

金融収支は前期比1億円減の30億円を見込んでおり、次期の税引前当期利益は前期比49億円(7.5%)増の700億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

530億円 前期比 **2.8%増**

税引前当期利益の増加に伴い、法人税の増加が見込まれることから、次期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比15億円(2.8%)増の530億円を予想しています。